



桜

飯山市農業の課題3

「集落営農と農業法人」

柳原・外様で新しい動き

これからの農業にとって集落営農や法人化は、農業従事者の減少・高齢化が進む中、安定した農業経営の継続や農地保護のために、期待が大きくなっています。

☆集落営農とは

集落営農とは、集落など地縁のまとまりのある地域において、農家の話し合いによって共同化についての合意により行う生産活動を行います。

集落ぐるみで効率的・計画的農地の集積、個人では困難な大型機械の購入、施設の共同利用や農作業の分担などが可能となります。

集落営農で大事なポイントは「集落の合意づくり」であり、リーダーを選出し集落全体が参加できる体制が重要です。○委員会を設

立○現状把握○合意形成○役員組織の決定○営農計画の作成などについて、リーダーを中心とことん議論する事が大切です。

なお、任意組織である集落営農を組織化した「特定農業団体」、法人化した「特定農業法人」もあります。

☆農業法人とは

集落営農をより効率的に、安定的な経営体として持続性を確保するため、任意組織としての集落営農から、より成熟度の高い法人に発展させる事ができます。事業として農業を営む法人を農業法人といいます。法人化により、対外信用力の向上、税制面、資金融資などで優遇され、生産・経営面でのメリットがあります。

集落営農

農業法人



☆「外様営農組合」発足へ

外様地区では19年11月25日に集落営農組織「外様営農組合」の設立総会が開催されました。

これは、従来からあった地元の外様耕作組合協議会を基本に任意の組合として設立され、当面は共同発注や経理の二元化等を進めていく計画です。
・加入組合員数 二四六名
・水田面積 約二〇ha



☆「柳原営農組合」から農事組合法人「やなぎはら」へ

平成14年に発足した柳原営農組合では、より効率的・安定的な経営体を目指して、16年には将来法人化を旨とする法人となるために特定農業団体となり、19年12月8日には農事組合法人「やなぎはら」の設立総会が開催されました。

・加入組合員数 二二五名
・水田面積 約八一ha

活躍する

飯山の農業者

◎11月26日に木島の「坂井芋」が長野県の「信州の伝統野菜」伝承地認定を受け、木島里芋研究会に認定証が授与されました。

また、同日に市農業委員会は農業振興を目的に毎年選ぶ市農業賞を、豚肉「みゆきポーク」を生産する「みゆきポーク生産者の会」に贈りました。

◎11月24日に第9回「全国米・食味分析鑑定コンクール」総出品数二〇二三検体の内、総合部門で金賞(15人)には鈴木和夫さん(常盤)、金崎隆さん(大田)が、特別優秀賞(24人)には宮沢宝さん(太田)が受賞しました。

◎2月1日に県農政部が主催した「明日の県農業を担う若人のつどい」ではプロジェクト・演説発表の部で

飯水農業青年クラブ協議会の大日方あやさん(常盤)の発表が最優秀賞となりました。

それぞれの方々の活躍は、いづれも、今後の飯山市の

農業や農業従事者に対して大きな活力や自信を与えてくれるものと思います。

がんばってます!

— No.25 —

仲間と一緒に楽しく



おびなた
大日方 あや さん
小沼(常盤)

下高井農林高校を卒業後は農業大学校に進み、現在は木島平村農業振興公社に勤務し、家は母豚肥

この2月1日県民文化会館で開催された「明日の長野県農業を担う若人のつどい」において、飯水農業青年クラブ協議会の代表として意見発表をした大日方あやさんが見事、最優秀賞として県知事表彰を受けました。

発表内容は「ぼくらのGW二日間戦争」と題し、いやませの花まつりで焼きアスパラガス販売をしている時に、自分たちのシャイな部分を克服し、自分たちが作った農産物を自信をもって売ろうと考

えた内容を発表し、前年のクラブ員の発表に続く連続の知事賞でV2の結果となりました。

あぜ道だより



農業委員 小林 隆行
(外様地区)

そこで、平成9年設置された飯山市農地保有合理化センター旭町地区推進委員会において、地域農業の持続的発展を可能にするシステムづくりを目指す事になりました。「先人が苦労して守ってきた農地を、現在の我々がより有効活用を図り子々孫々まで立派に伝えていく使命がある」との理念をいただき、集落リーダー

を中心にして先進地視察や集落懇談会を数多く重ね、大規模農家や個人営農に偏らず、地区全体で営農を支えていく集落営農経営体の方向に意志統一され平成14年2月、柳原営農組合が設立されました。

理由はと聞くと机に座りつばなしです仕事より体を動かしていたほうが性に合うと笑って話していました。

会社に入社と同時に今の青年クラブに参加し、仲間と楽しく活動を行っているそうです。

最後にお願いされたのは、菜の花まつりで一緒にやってみらえるボランティアや青年クラブと一緒に活動できる仲間を増やしたい事、と意欲をみせていました。